

平和の歌声に満場の聴衆が感動

ローグバレー平和合唱団との交流会

福10 - 文 芳賀 順子



平和の歌を合唱するローグバレー合唱団のみなさん

8月初旬、アメリカ・オレゴン州アシランド市から、田村秀子さんを代表として38人の混声合唱団、ローグバレー平和合唱団が来日しました。広島原爆記念日に鎮魂の思いを込めて平和公園供養塔前で平和の祈りを歌い、平和の歌を通して日本人達と交流を深めたいと、京都、神戸、広島でコンサートを開催しました。

この合唱団は、80歳から18歳までの幅広い年齢で医学生、弁護士、画家、日本で教鞭をとられた元教師、大学教授、ソーシャルワーカー、禅導師、音楽家などと多彩な分野の人達でした。

唯一人の日本人団員の田村秀子さんは、広島で被爆されて、シカゴ大学で社会福祉を学び、大学病院でソーシャルワーカーを退職後、オレゴン州に移り平和合唱団との出会いがあったそうです。原爆体験記「One Sunny Day」を出版。今も反核、平和について語り続けています。

ローグバレー平和合唱団の指揮者デブ・マーストン氏は、クラシック音楽団シスキューシングアースの指揮者、教会聖歌隊の指揮者としても活躍されています。自ら歌手としても亡きジョン・レノンの作品をこなして、ワンマンショーにも出演するという多彩な人です。

8月2日夜、神戸栄光教会でのコンサートの翌日、神戸市シルバーカレッ

ジでの交流会に来演されたのです。カレッジホールには200人余りの聴衆が集まり日米シニアの交流を深めました。コーロKSC、KSC男声合唱団、銭太鼓、一寸奉仕の南京玉簾、最後にローグバレー平和合唱団は、日本語で「折鶴よ広島空に」と「Blue Sky」を歌い、会場の大喝采を受けました。

アンコールに応じて指揮者のデブ・マーストン氏は、昨夜のコンサートの後、心のままに作曲した歌を歌いますと、壇上より降りて持ってきたギターを弾きながら切々と歌いだしたのです。合唱団の人達も始めて聴く歌でした。



熱唱するデブ・マーストンさん

I'm sorry. I'm sorry. すみません!
We threw the atomic bomb
to Hiroshima.

I'm sorry. I'm sorry. ごめんなさい!
We threw the atomic bomb
to Nagasaki.
We're sorry. We're sorry.
We're very sorry!
We killed your mother.
We killed your children.
I'm sorry. I'm sorry. ごめんなさい!
I'm sorry. I'm sorry. すみません!
At the time, I was not born yet.

繰り返しこの歌を歌われました。平和合唱団の方々は、ビックリした様子で涙を浮かべている人、静かな声で「この歌を歌う事を知らなかった!」と目を伏せられました。私はガーンと頭を打たれたような感動で胸が一杯になりました。その後「We shall overcome. We are bringing in a time of peace.」をカレッジホール一杯に手を取り合って大合唱に成りました。

グループわ食文グループの手作りのちらし寿司・味噌汁・オードブルの昼食は大好評でした。各テーブルごとの歓談に熱が入りました。私のテーブルで、ご一緒したメリーアン・ジョーンさんはカリフォルニア州の出身。私たちが家族が駐在していたロス郊外のクレアモントにあるボモナ大学の卒業生で、若き日の思い出に話が弾みました。

クリス・ヒンスさんは、ペンシルベニア州出身。この青い地球を守る為に、この青空を未来の子供達に残す為に、平和な世界を作る為に歌で世界を結ぼうと、ローグバレー平和合唱団に入ったそうです。

ロシア、アフリカ、アメリカ、日本で活動を続けて3年になるのです。9.11テロ以来、テロとの戦いが続いている事に、良識あるアメリカ人、私達世界中の人達は心を痛めています。一日も早く平和が戻るように願っているのです。

いま中東で繰り返し続く紛争の傷は、大変深くその回復は難しく長期間かかると思います。善意ある人々が傷ついた女性たち・子どもたちへの愛の手を差し伸べていかねばならないと思いました。